

サビエル生誕五百年



巡礼の道

271

藤屋 侃士  
(下松市幸ヶ丘)

## 韓国への船旅

全羅南道・釜山の旅①

韓国を初めて訪れたのは昭和五十七年、今から二十九年前のことである。

ソウルで同行のイタリア人神父とタクシーに乗って話し始めた途端、タクシーは急停車し「日本人は降りろ」と怒鳴られた。

日本の教科書の記述で、韓国への「侵略」を「進出」に変更したとして対日感情が悪化。訪韓前に新聞で日本人の

タクシー乗車拒否事件が起こったことは知っていた。まだ韓国が「近くて遠い国」と言われた時代のことである。

そんな時代だったからこそ、ソウルに出かけ、将来を担う中・高校生との交流について話し合った。その結果、山口・島根地区のカトリック教会との若者交流として関釜フェリーの韓国側の発着地、釜山の水晶教会と二年に一度、交

互に夏の合同キャンプをすることになった。あれから早や三十年、この間、韓国の発展は目ざましいものがあり、両国の関係も「近くて近い国」になった。今、婦人層を中心に韓流ドラマへの人気の高さに驚かされる。

日韓交流合同キャンプは今も続いているが、今は全く関係していない。当初は子供たちと訪韓する際は関釜フェリーを利用したが、それ以外の時は飛行機を使っていた。

その理由はフェリーの

場合、下関で午後六時に出国手続きをして出港が七時、釜山下船するのは翌朝八時。十時間かかる。その間、航行しているのならば、航路は午前七時半と船の乗っている時間は多少短縮されてはいるが、下関と五十歩百歩。利用者よりも税関が優先なのである。

関釜フェリーが好きになれない。博多―釜山間のフェリーは釜山出港は下関港より一時間遅い午後八時。博多下船は午前七時半と船の乗っている時間は多少短縮されてはいるが、下関と五十歩百歩。利用者よりも税関が優先なのである。

この十年、フェリーは利用しなかったが、今年夏、久しぶりに娘夫婦の提案で関釜フェリーで釜山に家族旅行した。三年前から妻は左半身が不自由でつえを使う。以来、私の「速い、強い」がいいという価値観に変化をきたした。年齢のせいもあるが、「遅い、弱い」中にも大切な価値を感じる。

そしてフェリーなどの船旅にも関心が強くなった。夏の釜山へのフェリーの旅では乗船すると娘の主人が「お父さん、風呂に行きましょう」と誘ってくれた。写真のように、湯舟はかなり広く、船での入浴は何とも言えない。翌朝も朝風呂に入り、レストランでゆっくり朝食を食べた。飛行機では体験できないゆつたり気分。

釜山港の沖に停泊中の船から朝日がのぼるのを見て一層船旅の良さに気づかされる。確かに深夜、早朝の税関業務をしないことに起因しているにしろ、そこで働く人たちのことや効率を考えるのも当然とも思い始めた。

申し込みながら自分の体調不良で中止したことに釈然としない気持ちのところに船旅での全羅南道の旅のお誘いを受けた。



関釜フェリーの浴場

ゆつたりとした船旅でもう一度、巡礼の視点は何か大切なのかを考えると初めての韓国南西部の旅に出かけたのである。

に深夜、早朝の税関業務をしないことに起因しているにしろ、そこで働く人たちのことや効率を考えるのも当然とも思い始めた。

ゆつたりとした船旅でもう一度、巡礼の視点は何か大切なのかを考えると初めての韓国南西部の旅に出かけたのである。

申し込みながら自分の体調不良で中止したことに釈然としない気持ちのところに船旅での全羅南道の旅のお誘いを受けた。



停泊中の船上で朝日を拝む